

# 日本レジャー・レクリエーション学会 第30回学会記念大会の開催にあたって

日本レジャー・レクリエーション学会

会長 鈴木 祐一

20世紀最後の年に記念すべき第30回学会記念大会を明治大学のご協力をいただき、駿河台校舎において開催することとなりました。この記念大会では今世紀の歩みを概括しながら、学会としても新しい世紀へ向けて確かな歩みを見据え、加えて学会本来の社会的な役割もしっかり果たしていかなければならないと思っております。

取り分け、わが国の社会状況はますます複雑化する中で、多くの深刻な課題を抱えたまま新しい21世紀を迎えようとしております。学会としても、単なるあそびでもない、また仕事でもない、いわゆるレジャー・レクリエーション領域で生起している様々な課題について積極的な関わりを求め、それらを研究分野として捉え、その研究成果や果実を広く社会に向けて提供し、学術的な貢献をしていかなければならない時代があります。記念大会を機に会員の皆様も、研究会・学会としての30余年の歴史を顧みながら、新しい時代に向けて多くの情報交換をしていただきたいと念じております。

今学会では、“新しい時代とあそびの再考”をテーマとし、井上ひさし氏による記念講演を予定し、シンポジウムでは、嵯峨 寿常任理事がコーディネーターをつとめ、シンポジストとして愛知教育大学杉浦 恭氏（「あそび」と文化）、米村恵子氏（「あそび」とライフスタイル）、東京農業大学麻生 恵氏（「あそび」と空間）をお迎えし、それぞれの専門分野の視点から、貴重なお話を戴けることになっております。

また、多岐にわたる貴重な研究発表が多数予定されておりますので、多くの会員の参加を得て、活発な、活気に溢れた学会になりますことと確信しております。学会期間中に会員の皆様にお会いできますことを楽しみに致しております。